

アステラス製薬、 グローバルで行われる 医薬品安全性監視業務に適用 アウトソースコストの削減効果が 期待されるRPA



組織の概要

「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」という経営理念のもと、革新的な医療ソリューションを提供し続けているアステラス製薬株式会社。前立腺がん治療剤や過活動膀胱治療剤など、さまざまな治療剤を市場に供給しており、世界各国に研究拠点や販売拠点を設けるなど、製薬業界における国内屈指の企業としてグローバルにビジネスを展開しています。

課題 製薬会社に欠かせない業務への適用を目指す

多くの企業がAIやIoTなど新たな技術に取り組み始めた2017年、同社のなかで話題の1つになっていたソリューションがRPAでした。経営層から新たに登場する技術への取り組みについて問われるなかでRPAに関しても話題が挙がり、社内への適用を検討することになりました。

RPA適用を前向きに検討するべく現場の課題をヒアリングし、業務の洗い出しを行っていく中で効果が期待できる業務として注目したのが、ファーマコビジランスと呼ばれる医薬品安全性監視に関する業務でした。この業務には、医薬品の臨床試験などに関する安全性情報を世界各国の当局に報告するCase processingと呼ばれるものがあり、製薬会社の多くが費用をかけてアウトソーシングしているものです。この業務にRPAを適用することで、大きな効果が期待できると考えたのです。

ソリューション

グローバルでの豊富な実績とセキュリティ・ガバナンス機能が魅力

社内に展開する前にPoCを実施するべくRPAツール選定を進めるなかで注目したのが、Automation Anywhereが提供するRPAソリューションでした。できるだけ短い期間でスタートさせたいという意向から、グローバルの実績を高く評価し、短期間で採用が決まりました。またロボットの権限管理や監査証跡ログを活用した監査対応など、しっかりとしたセキュリティおよびガバナンス環境が整備できる点も評価の1つに挙げています。

もちろん、世界中でビジネスを展開している会社だけに、日本で調達したツールを海外で利用することも多く、大前提としてグローバルで使えるものが不可欠でした。その意味でも、Automation Anywhereが誇るグローバルでの実績は同社の環境にも適したものでした。

メリット

特定業務で **1/6** にまで削減

社内業務における削減時間

8+

自動化された業務プロセス

自動化されたプロセス

- ・ファーマコビジランス業務
- ・Revenue operations対応
- ・Webサイトからの請求書ダウンロード
- ・製品の変更管理の監査

業界

ライフサイエンス/製薬

「できるだけ短い期間でスタートさせたいという思いがあり、今回は市場の評価を前提に、製品を選ぶ時間をかけない方法を採用しました。Automation Anywhereを選んだのは、グローバルの実績を高く評価したためです」



— アステラス製薬株式会社
情報システム部
アーキテクチャ担当
課長

上村 丈二 氏

そこで、具体的にPoCによるロボットの業務適用を試行し、Automation Anywhereが同社に必要な要件を満たしたうえで効果が得られると判断。最終的に同社に展開するRPAとしてAutomation Anywhereが選ばれることになりました。

詳細 安全性情報を含めた5つの業務にRPAを適用

現在は、日々発生するファーマコビジランスにおけるCase processing業務をはじめ、米国各州の保険会社から寄せられる薬剤の使用状況に関する報告書を確認するRevenue operations業務など、それぞれの業務に対して5つのロボットが動いている状況にあり、使用頻度も業務によって異なっています。

具体的には、Case processingでは安全性情報に関する症例を世界各国の当局に報告するための登録業務のなかで、過去の症例と合致したものがあるかどうかのチェックをRPAが実施。またRevenue operationsでは、米国24州に展開する複数の保険会社から通知される四半期ごとの薬の利用状況に関するメールをトリガーに、Webサイトから報告書をダウンロードし、社内にある収益管理のシステムに投入する業務をRPAが担っています。ほかにも、薬を製造する過程で発生する各種パラメータ情報を収集し、Excelのマクロを駆使して生産系のデータを可視化する業務の自動化などにもRPAが活用されています。

結果 アウトソースのコスト削減効果を見込む

現在は5つの業務にRPAを適用しており、Case processingに関しては全てのケースで自動化が可能になれば外注している業務の内製化によってアウトソースのコスト削減効果が見込まれています。なかには一つでは大きな効果が得られないものも含まれていますが、人がやらなくていいことはRPAに任せ、もっと創造的な仕事に人の時間を使ってもらえるような環境を整備していくことが同社の狙いです。

Automation Anywhereについては、具体的にやりたい業務にきちんと適用できることが大事だと評価しています。また、ビジネスのインパクトが可視化できるBot Insightやデジタルワーカーとなるロボットがすぐに利用できるBot Storeなど、今後活用してみたい機能が豊富にある点も評価しています。

今後 既存業務の範囲拡大と開発部門など新たな分野へのRPA展開を目指す

今後については、ファーマコビジランスの領域の1つで、治験を行っている薬の安全性情報を当局や病院に提供するためのレポート作成業務への適用をはじめ、まだ対応できていない地域で行われているRevenue operationsへのRPA適用、要望がすでに寄せられている開発部門への展開も具体的に検討しています。なお、AIの認識技術を搭載することで自動化の範囲を拡張する「IQ Bot」についても興味を持っています。

「開催いただいたハンズオンによって、具体的にどう動くのかがイメージできました。何でもできるわけではないことが理解できたことも大きな収穫です」



— アステラス製薬株式会社
情報システム部
ガバナンスグループ
若月 千裕 氏

Automation Anywhere について

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォース プラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 www.facebook.com/AutomationAnywhJP

 contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2020年1月バージョン1

